

ノロ・ロタウイルス感染症の治療と予防

国際医療福祉大学救急医学講座教授

志賀 隆

(聞き手 山内俊一)

ノロ・ロタウイルス感染症の治療と予防について、最新の知見をご教示ください。

<匿名>

山内 志賀先生、成人しか見ていないと、ノロウイルスが圧倒的に多い感じがいたしますが、ノロとロタの違いはいかがなのでしょう。

志賀 ノロウイルスと比べるとロタウイルスのほうが免疫の獲得されやすさがあるかと思います。ノロにはワクチンはありませんが、ロタでは2020年10月から導入されたことからわかるように、免疫獲得というところが違いではないでしょうか。

山内 したがって、成人ではロタは比較的少ないと考えてよいのですね。

志賀 そうなりますね。

山内 それはなかなかわかりやすいですね。逆に言いますと、ノロというのはなかなか免疫がつきにくいのですね。

志賀 そうですね。

山内 もう一つは、これは冬場に多い印象がありますが、ノロは通年性ではないウイルスなのでしょうか。

志賀 夏場でも起きるときは起きますが、頻度としては冬場のほうが多いです。

山内 ご覧になっていて、やはり冬の病気という印象はありますか。

志賀 そうですね。印象としてはそうなります。

山内 これはある意味、食中毒的な感じのとらえ方もできるかと思っておりますが、実際、ノロは二枚貝摂食での感染が有名です。二枚貝を介することが多いと見てよいのでしょうか。

志賀 そうですね。二枚貝の摂取から始まること、あとは二枚貝を取って感染してしまった人と接した人との間の感染、これがメインになってくると

考えています。

山内 二枚貝は日本ですとカキとか。

志賀 生ガキはおいしいかもしれませんが、加熱したほうがいいですね。

山内 貝の中でウイルスが増殖してしまうものなのでしょうか。

志賀 貝の中自体では増殖はあまり起きないのです。保持しているウイルスがヒトの中に入ると、かなり増えるという考えでよいと思います。

山内 貝はどうしてこのウイルスに感染すると考えられていますか。

志賀 可能性としてはヒトの糞便が下水に出てという可能性もありますし、それ以外にも、ちょっと詳細は私もまだ理解していないのですが、地域によってノロが多い海というのがあります。

山内 海の汚染ですね、ある意味。さて、症状になりますが、ノロウイルスに関しては、嘔吐、下痢、発熱、3つそろったら疑いましょうという感じですが、これでよいのでしょうか。

志賀 まさしく先生がおっしゃるとおりで、嘔吐、下痢がメインで、発熱に関しては、微熱の人もいれば、高熱の方もいます。嘔吐は何度も何度も吐いてしまって本当に頻繁です。下痢に関しては、軟便ではなくて、スープのようになってしまって、水下痢が出られる方が多いと思います。

山内 俗に言うトイレとお友達になるというパターンですね。

志賀 本当ですね。まさしく駆け込

んで、駆け込んでというような辛い状況ですね。

山内 急性期に関しては、ノロとロタの鑑別は検査しないかぎりには困難と考えるとよいのでしょうか。

志賀 なかなか鑑別は難しいと思うのですが、ロタのほうがやや白い便が出ると一般的にいわれています。ただ、あくまで参考で、好発される年齢がロタの場合は小児が多いのと白い便が多いという、そのあたりです。かつて麻疹と風疹がなかなか鑑別が簡単ではなかったのと同様に、臨床的には単純には鑑別できないかと思います。

山内 ノロは3日はしかではないですが、だいたい3日ぐらいでけろっと治りますか。

志賀 そうですね。3日でだいたいよくなります。72時間頑張ってくださいと励まして救急からお帰りいただくことはよくあります。

山内 逆にロタは長引くことが多いのでしょうか。

志賀 ロタの場合は、お子さんによっては症状がけっこう強くなってしまって、入院される方もいます。

山内 重症の合併症も起こり得るとみてよいのでしょうか。

志賀 そうですね。腸重積が起こることがありますので、そこは心配ですね。あとは、脳のほうに感染が広がってしまうなどもあり、それらはノロではほとんどないので、ロタのほうがは

るかに危ないものですね。ですから、ロタのほうが少し長引く場合があると考えています。

山内 少し怖いですね。

志賀 そうですね。

山内 さて、治療ですが、救急にこういった患者さんが運び込まれたとき、まずどういった処置をなさいますか。

志賀 非常に強い脱水がある方もいらっしゃると思います。その場合は点滴を取って、しっかり生理食塩水であったり、乳酸リンゲル液、いわゆる細胞外液といわれる血の成分に近いような点滴を早く、成人だったら1~2L/kg、小児であったら20mL/kgを何とか、というかたちで治療していきます。制吐剤を口やお尻から投与しても症状が取れない場合がありますので、経静脈的に点滴から投与することによってしっかりと効く状態に持っていけるかと。

山内 かなり積極的な治療ですね。

志賀 そうですね。ぐったりしてしまっても全く口から取れないような方に関してはそのようにします。逆に、若い方で水分を何とかご自身で取れるという方に関しては、スポーツ飲料であったり、経口補水液を取っていただいて、口から徐々に溶けるOD錠と呼ばれる制吐剤、ドンペリドンなどを取っていただくようにしています。

ちなみに、アメリカの研究で、薄めたリンゴジュースと経口補水液みたいなものを比べて、子どもの予後がどう

なるかを調べたものがありました。意外と薄めたリンゴジュースでもいいという、非劣性試験だったと思いますが、経口補水液とかスポーツドリンクは子どもは嫌いなのですよね。

山内 今OD錠という話が出ましたが、確かにこの制吐剤は口からでも、坐薬のほうでも、吐いたり、下痢してしまうということがあって、出てしまう感じがいたしますね。

志賀 そうなのです。特に坐薬のほうは出てしまうかと思われるのですが、OD錠のほうはゆっくり溶けて、胃のほうに入っていくので、少量の液体が入ることによってすぐ嘔吐する可能性というのは、100mLであったり、200mLなどの大きな用量に比べると少ないので、比較的耐えられると考えられます。

山内 一つのコツなのですね。

志賀 そうですね。お伝えするとき、子どもの場合は注射、シリンジから数mLずつ粘膜に入れるようなかたちであったり、大人の方にはペットボトルのふたぐらいの量を何度も何度も飲んでくださいというようにお伝えしています。

山内 予防に移りますが、加熱に尽きるのですね。

志賀 本当ですね。加熱をしっかりとしないといけないので、生ガキはちょっと食べにくいですね。

山内 殺菌のほうに移りますが、ど

ういったものが勧められるのでしょうか。

志賀 基本的には塩素系漂白剤5mLプラス水500mLで、1%にした希釈液がお勧めで、これは次亜塩素酸・消毒などのキーワードとともに目黒区と入れてネット検索していただくと、素晴らしいウェブサイトがありますので参考にされてください。ハイターとか、そういうものを5mLと水500mLで作

っていただいて、手洗い等には使えないのですが、キッチンペーパーなどにしみ込ませて、共用部分、リモコンやテーブル、ドアノブ、トイレなどの消毒に使っていただくのがいいかと思います。

山内 2020年10月からロタのワクチンが入ってきましたので、このあたりも今後、期待したいと思います。ありがとうございました。